

学校だより

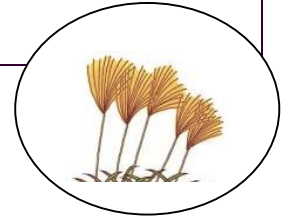
きたなだ

2017.11.7 第23号 文責 石止

校訓

正しく なかよく たくましく

日ごとに寒気加わる季節となりました。29日（日）は、台風接近の中、家族参観日に御来校いただきありがとうございました。子どもたちの真剣な学習態度はいかがだったのでしょうか。以下は、保護者の感想です。



保護者の感想より

授業について

- ・私語が気になりました。
- ➡授業に集中できる環境をつくっていきます。お子さんにも話をしてみてください。
- ・道徳の授業でしたが、良く分からなかった。元気でよかったが、もう少し内容のある授業にしていきたい。
- ➡内容が充実し、分かる授業を実践していきたいと思います。
- ・季節の行事などみんなよく知っていて感心しました。日本のことは、知っているようであまり知らないのだと思いました。また、言葉で説明する難しさを確認しました。
- ・「ハイ」と答える子どもたちを見て感激しました。みんな一生懸命に励んでいました。
- ・発言しない児童がいたので、一言でも発言できるように促せばよいと思った。
- ➡児童が自分の意見を発表できるよう、質問を工夫したり、指名したりしていきます。

講演会について

- ・勉強不足で難しい話もありましたが、大変ためになりました。
- ・いろいろ考えさせられる内容で良かったです。
- ・人との出会いは、一期一会。たとえ言葉が通じなくても、相手の気持ちに寄り添うことが大事だと思いました。
- ・子どもとの接し方を考えないといけないと考えさせられました。

その他

- ・子どもたちの間で、「ファック・ユー」「ランランルー」等汚い言葉が流行っているようです。「ランランルー」は、「死ね死ね消えろ」と言う意味だと勘違いしたものが子どもたちの間で流れているそうです。他人に言うてはいけないこと、面白がって口にしてよい言葉ではないことを改めて指導していただければと思います。
- ➡先週、「ファック・ユー」「ランランルー」について全校児童に指導しました。ご家庭でも、言葉遣い等生活習慣について指導していただきたいと思います。家庭と学校が協力して児童の健全育成に努めていきましょう。

俳句キッズに掲載されました！

ーりんしゃうんどう会にまに合うか 2年 大石 權士君

玉入れてねらって二つあきの空 2年 坂本 愛梨さん

「あらしのよるに」を見て

・オオカミとヤギが仲良くしていたからびっくりしました。メイとガブが会えてよかったです。オオカミがメイを食べるのを我慢したから偉いと思いました。2人は、会えてよかったなと思いました。今日は見れてよかったです。（1年 松本さくらさん）

・オオカミのガブがメイと仲良しでいいと思いました。メイのお母さんが、オオカミに食べられてメイがかわいそうでした。最後にガブがメイのことを忘れて食べようとして、でも、食べなかったのよかったです。（2年 武田 楓有さん）

・ガブとメイが川に飛び込んだけど、生きていたからすごいなあとと思いました。流れのショックでガブがただのオオカミになっちゃったけど、メイのおかげでガブが元のガブに戻って一緒に月を見てよかったです。（3年 田淵 皐月さん）

・オオカミは夜が明けてヤギに会ったら、食べてしまうと思ったけど、友情はとても大切だと改めて思いました。最後に、ガブの記憶がなくなったけど、メイとの楽しかったことや嬉しかったことを思い出して、親友になれたのが感動しました。私は、ガブはとても優しいと思いました。メイもはじめて顔を見たときに、逃げないなんて勇気があると思いました。（4年 木下 楓夕さん）

・メイとガブは、ある嵐の夜に出会って仲良くなりました。その時は、メイはオオカミと思っていませんでした。ガブもまさか餌で食べているヤギだとは思ってなくて、はじめて顔を見たときの反応がおもしろかったです。嵐の夜の雷にびっくりしているところもおもしろかったです。2人は家族のために別れたりしたけど、2人は会えてすごいなと思いました。ガブは、1回記憶を失ってしまって、メイのことを食べようとしたけど、メイの言った一言「あらしのよるに」と言った言葉ですべてを思い出したのでよかったなと思いました。これからも2人の仲は続いてほしいと思います。仲良くなった人が、決して敵でも、仲間の絆が壊れなくてよかったです。

（5年 武田 莉奈さん）

・嵐の夜に小屋で出会い、そこからの旅が感動的でした。ガブとメイが意見を出し合い、協力し合いながら、旅をしていったところが心に残りました。（6年 木下 翼君）

思いやりの一歩

相手や周囲を思いやる優しさは、できるだけ行動に表したいものです。思いやりにあふれた光景を紹介してみます。駅のホームで、盲導犬を連れた男性が、慌てて列車に乗ろうとしていました。その男性はドアの正確な位置が分からないようで、躊躇していました。その時、車内にいた乗客が男性の手を引き、優しく車内に誘導しました。また、混雑しているエレベーターに乗り込んだ人が、行き先階のボタンを押せずに困っていると、「何階ですか」と声をかける人もいます。

道端に倒れている看板を起こす人、通行の妨げになっている自転車をサッと移動する人など、街には様々な思いやりの光景があります。大衆の中で、思いやりを行動に移すには、一歩を踏み出す勇気があるものです。行動するきっかけとして、「自分が助けてもらったこと」を思い浮かべてみましょう。その時の嬉しかった気持ちを持って、手を差し伸べましょう。

自分が受けた恩を自覚しながら、温かく人と接していきましょう。